

おふくろの味

イデオロギーと郷愁、概念の変遷をめぐって

「母（母性）」「母恋い」を考察した著者のシリーズ三部作
最後の一冊。「おふくろの味」という言葉のディスコース分析を
通して考察を試みる。

●著者による母性を考察したシリーズ三部作の最後となる一冊。

本書では、この考察を「おふくろの味」という言葉のディスコース分析を通して試みていく。

特徴的なのは、新聞記事を文学作品のように読み、映画や小説、テレビドラマ等を歴史的資料のように扱うことだ。この言葉の創出期からを時間軸に沿ってみていくと、「おふくろの味」というたった6文字の、何でもないようなワードが、日本語と日本文化のなかでイデオロギーとしての役割を担っていたことがみえてくる。人々は知らず知らず、これに操られていたのである。

1980年代以降、「おふくろの味」が個人的な郷愁から離れ、「伝統的な和食」「手作り料理」「郷土料理」「母から娘へと継承される家の味」「馴染み深い味（ただし、故郷に対する郷愁ではなく、慣れ親しんだ場所・職場に対する郷愁によるもの）」といった様々な意味をまといながら巨大化していく。

現代では、一般概念ともなっている「おふくろの味」の概念の変遷は、これから先も多様な意味をはらんでいくことを示しているだろう。

付録として、巻末に「おふくろの味」についてのインタビュー集を収録。



著者略歴

大野 雅子(おおの まさこ)

帝京大学外国語学部教授。専門は比較文学、イギリス・ルネッサンス文学。

1985年津田塾大学学芸学部英文学科卒業。1988年東京大学大学院人文科学研究科英語英文学専攻修士課程修了。

1991年同博士課程退学。2003年プリンストン大学比較文学科博士号取得。

スペンサーの研究者として知られ、文学における洋の東西を問わない博学により斬新な論を発表している。

著書に『ノスタルジアとしての文学、イデオロギーとしての文化—「妖精の女王」と「源氏物語」、「ロマンス」と「物語」—』（英宝社）、『母恋い—メディアと、村上春樹・東野圭吾にみる“母性”』（PHPエディターズ・グループ）、共著にSpenser in History, History in Spenser（大阪教育図書）、『詩人の詩人 スペンサー』（九州大学出版会）、『伝統と変革—一七世紀英国の詩泉をさぐる』（中央大学出版部）などがある。

貴店印・帳合

ご注文数

おふくろの味

イデオロギーと郷愁、概念の変遷をめぐって

大野 雅子/著

定価：本体1,800円(税別)

ISBN978-4-910739-44-1

発売日：2024年1月18日

ご担当

様

冊

PHPエディターズ・グループ

四六判並製/296頁

発行

PHPエディターズ・グループ

〒135-0061

東京都江東区豊洲5-6-52 11階

☎ 03-6204-2931

FAX 03-6204-2932

ご注文はJRCへ▶▶▶ FAX 03-3294-2177

※返品条件付き注文扱い

すべての取次への出荷が可能です。